

放送大学「生涯学習支援番組」(2021 年度第 6 回制作) の制作業務仕様書

1. 業務概要

放送大学学園(以下、「学園」という。)のテレビ番組(以下、「番組」という。)の構成・演出・収録・編集等の制作業務を行う。

本番組は、2021 年度に放送予定のテレビ生涯学習支援番組である。

請負事業者は、学園が示す企画方針および計画に基づき、学園プロデューサー等と連絡・協議を行いつつ連携をとり、番組制作業務を遂行する。

2. 請負期間

別紙 1 のとおり

3. 制作する番組・本数・概算所要経費

別紙 1～3 のとおり

4. 番組制作業務の具体的内容、手順

1) 放送番組の演出

- ・出演講師、学園プロデューサー等と打合せによる内容原案を元に、演出方法及び内容を策定、実施

2) 内容検討・番組進行表の作成

- ・番組全体の構成案(項目、配列、時間、配分)策定
- ・映像・音声素材等の選定(ビデオ・写真・コメント等)
- ・出演者との内容・スケジュールの交渉(講師・ゲスト等)
- ・ロケーション先の下見、選定

3) ロケーション(国内)の実施と編集

- ・ロケーション(国内)に必要な要員の手配、機材の準備及びロケーションの実施
- ・出演者のヘアメイク及び衣装の手配
- ・ロケーション実施後の映像・音声の編集等、後処理
- ・広報用写真(著作権処理を要しないもの)の撮影及び素材納品

4) 番組の素材資料の収集と作成

- ・動画・静止画・図版等の収集および作成。なお、資料の収集にあたっては学園が推奨する素材(AFP)を優先的に選択する。

5) 請負事業者による「放送大学学園著作物利用規程」に基づく権利処理(音楽等一部を除く)処理にあたっては、以下の点に留意のこと。

- ・学園が定める承諾書出演者から受領すること。また、受領した承諾書はコピーを保管の上、原本は放送部放送管理課へ提出すること。
- ・番組出演者にかかる出演料、交通費等は、請負事業者が負担すること。
- ・上記 4) の素材資料の放送(マルチ編成含む)等利用に関わる著作権等の調査、確認及び権利処理、並びに処理に伴う費用は請負事業者が負担すること。
- ・放送(衛星、CATV 等による同時再放送を含む)・インターネット配信(学園の HP 上での公開。ただし、ダイジェスト動画においては、 유튜브 等外部 HP 上での公開にも対応のこと)
- ・学習センター等への DVD 配架等の番組の二次利用に関わる著作権等の調査、確認及び権利処理
- ・権利処理及び利用した素材(音楽及び上記 3)等に伴う出演者並びに上記 4) 含む)等の記録

報告

- 6) 美術セットの調達と操作
 - ・ 大道具・小道具、生花木の調達及び操作
 - 7) タイトル、テロップ・パターンの制作等
 - ・ タイトル、テロップ・パターンのデザイン及び制作
 - ・ CG・アニメーションの作成及び操作

番組のダイジェスト動画の開始タイトル及び終了タイトルの表示方法は、別途学園プロデューサー等の指示に従うものとする。
 - 8) 番組の試写
 - ・ 学園プロデューサーによる完成前試写及び指示に応じた修正作業
 - 9) 放送用台本の作成、印刷
 - ・ 放送用台本の作成及び印刷
 - 10) 音響効果
 - ・ 番組に関わる選曲および効果音制作等
 - 11) スタジオ収録及び収録時の副調整室指揮
 - ・ スタジオ収録に関わる各種伝票処理
 - ・ 出演者・技術スタッフとの収録打合せ
 - ・ ドライ、カメラリハーサル
 - ・ 学園プロデューサー等の検査後、ディスク等引渡し
 - 12) 後処理、手直し等
 - ・ 資料の整理
 - ・ 伝票の整理
 - ・ 番組制作に使用した素材テープ等の入庫整理
 - ・ 納品後、番組の手直しについて、請負事業者の責めに帰すべき理由によるものは、請負代金に含むものとする。
 - 13) 上記各項目の業務遂行のために必要な打合せ参加
5. 番組制作業務に必要と想定される職種及び人数
- 請負事業者は、学園プロデューサーと協議のうえ、当該業務を適切に遂行できるよう各業務内容に応じ必要な専門知識を有する者を手配するものとする。
6. 学園施設・機器等
- 1) 収録は学園のテレビスタジオを使用する。収録に係わる業務に必要な技術要員は、学園で措置する。
 - 2) 完成素材収録用 XDCAM メディア、スタジオ収録用 XDCAM メディア、番組審査試写用 DVD-R、番組編成業務用 DVD-R は必要な数を貸与する。
 - 3) 請負事業者が手配・調達するものは以下の通り。
 - 収録時に必要な要員（技術要員を除く）○ロケ（要員および機材）
 - オフライン編集 ○音響効果 ○スタジオ大道具・小道具、道具操作
 - メイク ○衣装(スタイリスト)
 - 4) 上記に含まれないものについては双方で協議して決定する。
7. 記録媒体等
- 学園が使用する記録媒体は XDCAM メディアであり、記録媒体の学園外への持ち出し及び学園への持ち込みについては、全て XDCAM メディアで対応すること。

8. 学園への納入物品の取扱い

次の完成物を番組の種別ごとに記載された数量を別紙 1 に示す請負期間完了日までに制作部へ納品し、学園職員による検査を受ける。なお、納入物品は学園技術フォーマット（別添の「テレビ制作技術基準」を参照）に準拠すること。

	生涯学習支援番組 (1 番組あたり)	告知用動画 (1 番組あたり)
放送用本番素材記録XDCAMメディア	1 本	1 本
クリーンピクチャー収録XDCAMメディア	1 本	1 本
番組考査試写用DVD-R	1 本	1 本
番組編成業務用DVD-R	1 本	—
放送用台本及び電子データ	1 部	1 部

9. 番組制作業務完了等の報告

請負事業者は、番組完成後「番組制作業務完了報告書」、「著作権処理業務完了報告書」及び「楽曲使用報告書」を放送部放送管理課に提出し、学園職員による検査を受ける。また、出演者から受領した承諾書も放送部放送管理課へ提出する。（「4. 番組制作業務の具体的内容、手順」の（5）を参照）。

10. 請負代金の請求・支払

請負事業者は、8 及び 9 の検査に合格したときは、請負代金を学園に請求する。
学園は、適法な請求書受理後、40 日以内に財務部経理課から支払うものとする。

11. 著作権の帰属等

- 1) 制作した番組に関する著作権（著作権法第 27 条及び第 28 条に規定する権利を含む。）は学園に帰属する。
- 2) 番組は、学園の著作名義で公表する。
なお、制作協力等の表示は、学園の基準によるものとする。
- 3) 学園は、番組等及び関連素材を必要により改変して使用することができる。
- 4) 上記各項目は、許諾を得た第三者の権利の帰属に影響を及ぼさない。

12. 業務内容の変更等

- 1) 本仕様書に規定する事項は、別の定めがある場合を除き、請負事業者の責任において履行するものとする。
- 2) 予期することができない状態の発生など、業務内容を変更せざるを得ない場合には、学園と請負事業者が協議の上で、業務内容を変更することができる。
- 3) 業務内容が変更された場合には、請負代金についても協議の上、変更することができる。

13. 安全の確保

- 1) 請負事業者は、業務の実施にあたり、請負事業者の従業員を直接指揮命令する者（以下、「現場責任者」という。）を必要に応じて 1 名以上選任し、任務に当たらせるものとする。

- 2) 現場責任者は、業務の実施の過程における安全対策について、請負事業者の従業員およびその指揮下にある全てのスタッフの安全確保に十分取り組むとともに、徹底を図る。

14 業務の再委託等

- 1) 請負事業者は、業務の実施にあたり、業務の全部について、一括して第三者に請負わせたり、一括して第三者に再委託してはならない。
- 2) 業務の一部を第三者に対して、請負わせたり、再委託する場合、請負事業者は、あらかじめ、所定の事項について、学園に申請した上で、承認を得なければならない。

別紙 1

制作する番組・本数・概算所要経費・請負期間

1. 生涯学習支援番組 2 番組

No.	分類	題目名	放送（ネット配信含む）期間	概算所要経費（税込）	請負期間
1	その他	生活設計におけるリスク管理と生命保険（仮） （45 分×2 本）	2 年	3,872 千円	契約締結日～ 令和 4 年 2 月 28 日
2	BS キャンパス ex 特集	日本人にとってジャズとは何か （45 分×2 本）	2 年	3,784 千円	契約締結日～ 令和 4 年 2 月 28 日

2. 告知用動画 2 番組（1 分版×全放送回分 4 本）

内容	概算所要経費（税込）
放送やネット配信等で利用する 1 分間の告知用動画。	上記 1 に含む

2021 年 8 月 6 日

制 作 す る 番 組 ・ 本 数 ・ 概 算 所 要 経 費

担当プロデューサー、ディレクター
大塚制作部長

1) 番組名(グループ名) その他	2) 個別番組タイトル 生活設計におけるリスク管理と生命保険(仮)
3) 関係の深いコース 社会と産業、生活と福祉	
4) 放送回数、期間、マルチ展開など 2 年 2 0 回	5) 番組尺、本数 4 5 分 × 2 本
6) 内容等 a. 目的・ねらい 「人生 100 年時代」に向けて、一人ひとりが主体的に生活設計を行い、国や勤め先からの保障とあわせて自助努力によって生活保障の準備を行うことが重要な課題である。また、2020 年の新型コロナウイルス感染症という未曾有の災禍により、リスク管理への国民の意識が高まっている。 公益財団法人生命保険文化センターの調査によると、日本では約 8 割の人が生命保険に加入し、世帯加入率は 9 割以上に達している。このように生命保険は私たち市民にとって身近な存在である。しかし、保険とは何か、社会保険と民間保険は何が違うのか、加入している保険ではどのような保障があるのか、そして、日常に潜むリスクに十分に対応できているのかなど、意外と知られていないと思われる。 そこで、本番組は、我々の人生には死亡、病気・ケガ、老後、介護など、誰にでも起こりうる経済的なリスクが存在していることと、それらに対する三つの保障手段である公的保障、企業保障、私的保障(自助努力)の特徴、さらには私的保障の一つとしての生命保険について、法制度的な観点だけでなく、様々なデータや事例を交えて具体的に分かりやすく解説する。 これにより、様々な生活環境にある幅広い視聴者に対し、より望ましい生き方の実現に役立つ知識を伝えることを目的とする。	
b. 内容・構成 (前編) 1. 生活設計とリスク管理(仮) 1-1 生活設計の必要性 人生 100 年時代の到来や平均寿命と健康寿命の差といった日本の高齢化の現状を踏まえ、自分や家族の将来について生活設計を考える必要性について解説する。 1-2 生活設計におけるリスク管理の重要性 普段の生活ならびに自分や家族の将来において起こりうるリスクを認識することにより、生活設計におけるリスク管理の重要性について解説する。 1-3 リスクと生活保障手段 リスクに備えるための生活保障手段である公的保障・企業保障・私的保障の概要とあわせて、生活保障手段における私的保障の役割について解説する。 (後編) 2. 私的保障としての生命保険(仮) 2-1 生命保険の基礎知識	

生命保険契約時に必要となる専門用語、預貯金と保険の違い、保険の仕組み等について解説する。

2-2 リスクに備える生命保険

死亡、病気・ケガ、老後、介護といった4つのリスクに対応する生命保険の種類の詳細と特徴について解説する。

2-3 生命保険契約の見直し

必要な保障は、年代や性別、生活環境によって異なるため、ライフステージが変わったタイミングにおける生命保険契約の見直しについて、その必要性和ポイントについて解説する。

c. 取材対象 ロケ取材 : 有り（ゲストの大学教授に対してインタビュー等のロケ取材を行う可能性あり。）

d. 出演者など（※キャリアアップ支援認証制度を希望する場合は、担当講師及び客員教員発令の有無も記載）
李鳴（放送大学教授）、斉藤数弘（生命保険文化センター）、ゲストとして大学教授2名を予定（首都圏にある大学から家政学・家庭経済学の大学教授1名・保険学の大学教授1名）

7) 主体性の確保

本番組は、公益財団法人 生命保険文化センターより、講師の出演、資料の提供、取材等の協力を得て制作する。（連携制作 B.研究成果等利用タイプ）

制作にあたっては、企画提案者（責任教員）李鳴が主となり、生命保険文化センターと綿密に連絡を取りながら、番組の企画、全体の構成、内容の設計を行うとともに、台本・資料の確認、事前準備等の各段階にも積極的に関わり、大学としての主体性を確保する。なお、番組では、李鳴は全体のナビゲーターとして、学術的な解説を加える。

※補足説明

生命保険文化センターは1976年に設立された公益財団法人であり、生命保険制度の健全な発展の諸事業を通じ、国民生活の安定向上、国民の利益の増進に寄与することを目的とし、公正中立な立場から、①消費者啓発・情報提供活動、②学術振興事業、③調査活動の3つを柱に公益事業を行っている。その一環として、中学生、高校生、大学生、社会人を対象にした講師派遣活動を行っている。

したがって、生命保険文化センターにとっては、既存のコンテンツ、講師の人材を活用した本番組への協力は、上記活動の一環に該当し、求めている目的に一致するものと考えられている。

一方、本番組は本学にとっても、生涯学習支援のみでなく、面接授業科目「市民生活と保険法」およびオンライン授業科目「保険法（'22）」（大学院科目）への誘導ないし入門も図れるものとする。

8) 制作予定期間 契約締結日～令和4年2月28日

9) 演出上の特記事項 無し

10) スポット制作希望(原則有り)	☒ 有 ・ 無し	11) 字幕制作希望	☒ 有 ・ 無し
--------------------	--	------------	--

※出演者は現時点の予定であり、変更の可能性がある。
出演予定者に内容等問い合わせを行うことは厳禁とする。

制 作 す る 番 組 ・ 本 数 ・ 概 算 所 要 経 費

担当プロデューサー、ディレクター

大塚制作部長

1) 番組名(グループ名) BSキャンパスex特集	2) 個別番組タイトル 日本人にとってジャズとは何か －第一回 山下洋輔論文「ブルー・ノート研究」と初期山下洋輔トリオのフリージャズ －第二回 初期山下洋輔トリオの「間」と「呼吸」
3) 関係の深いコース 人間と文化コース	
4) 放送回数、期間、マルチ展開など 2 年 20 回	5) 番組尺、本数 4 5 分 ×2 本
6) 内容等 a. 目的・ねらい 本作は、外来の文化がどのように国内で受容されるのかをめぐる松原の研究（『共有資本論（仮）』建築・工藝・音楽・味覚）のうち、音楽編にもとづくものである。 日本人が行った海外（1974/75 年ヨーロッパ・ツアー）公演の中でも最大級の成功をしながら、その価値が日本国内では過小評価されているのが初期山下洋輔トリオ（森山威男・坂田明）である。彼らは Moers Jazz Festival では 1 時間を超えるスタンディング・オベーションで称えられ、連日の公演で警察が出動する騒ぎとなった。ところが 1975 年に森山氏が脱退したため海外での高評価は国内に伝わらず、またこのトリオの現役時代の演奏は映像がほとんど存在していない。 山下氏は 2003 年紫綬褒章・2012 年旭日小綬章、森山氏は日本ジャズ界の最高の栄誉である「日本ジャズ賞」を 2002 年に受賞、また地元可児市では老若男女に「ジャズと言えば森山さん」と敬愛されている。坂田氏はいまなお毎年のようにヨーロッパツアーを敢行しており、ミジンコ研究でも知られる。 3 人は後進のジャズマンに絶大な影響を与えたのみならず、「タモリ」を九州で発掘し、一時期は筒井康隆の作品に頻出するなど、1970 年代、80 年代のサブカルチャーにも多大な痕跡を残した。 山下氏の活動の原点は、肺の病で療養した 26 歳時に執筆した音楽民俗学の論文「ブルー・ノート研究」（1969）である。当時、ジャズは西洋音楽の楽理で統一的に解釈が進み、フォーマットとして統一されつつあったが、山下氏はそうしたジャズ解釈に異を唱えた。ジャズが統一的な原理にもとづくのであれば、「日本的ジャズ」は、「琴」を交え奏者が「和服」を着るものでしかなくなる。山下洋輔トリオの演奏は「音」だけで「日本」を印象づけるものであった。 そもそも日本においては明治以来、政府の音楽教育にせよ西洋音楽の楽理を絶対視するものであった。それに対し東京藝大教授の小泉文夫は民俗学的アプローチを駆使して、日本伝統音楽（民謡・律・都節・琉球）は 5 音で構成され、7 音で構成される西洋音楽の和音と音階においてズレがあることを唱えた。2 音足りず「こぶしを回」して補う歌謡曲はいまなお多数存在し、それによって歌い手の心情が込められる。山下氏はこの小泉理論をジャズの分析に応用、西洋音楽の和音とアフリカのメロディーにはズレがあり、それがブルーノートとなってアフリカン・アメリカンの苦悩表現に用いられたと解釈した。 一般的に西洋音楽として解釈されたジャズはコード進行とビート（ツービート、フォービート等）を柱とするが、山下洋輔トリオのフリー・ジャズはコード進行もビートも感じられない「フリージャズ」であった。即興ではある点ではジャズの花を継ぐものの、歌舞伎の見栄を連想させられる「呼	

吸」において「日本音楽」を強烈に印象づけるものであった。それはヨーロッパでは熱狂的に支持されたが、いかなる原理から成り立っているのか半世紀近く不明であった。

松原は2017年、科学研究費を用いて森山氏の技術を分析、監督・制作して映像に収め、『森山威男 スイングの核心』（ヤマハ・エンタテイメント）として出版した。インタビューから森山氏は、フォービート、エイトビート等の2の倍数、ワルツ等の3の倍数といったビートを感じさせないようにするために、両手ともランダムに2と3を叩くという奏法を駆使していたことが明らかになった。また森山氏が「終わり」を示唆する合図を発していたことも分かった。

『スイングの核心』の出版に呼応するかのよう、山下氏は近年出版した本において、当時の演奏技法が「ジャズにおいては西洋の和音とアフリカないし日本の音階（ピアノの左手と右手）がズレているのだから、逆手にとって別々に進行させ、最後で合わせることにした」旨を告白している（『ジャズの証言』新潮新書）。今回は山下氏を軸に、初期山下洋輔トリオの演奏原理を確認する。また2人の演奏形態が確立された後で加入した坂田氏の工夫についても証言を得る。

3人は、現役時代にも演奏の仕組みにつき互いに語り合わなかったという。今回、松原の呼びかけに応じて当事者が再会し、実演と座談会からその秘密を解き明かすこととなった。本番組は初期山下洋輔トリオのオリジナル・メンバー3人が演奏する点で貴重であり、また出演者が70代後半と高齢であるため、映像記録として後世に残す価値は多大である。知的な音楽論と迫力ある実演は広く関心を惹くコンテンツとなると確信する。

b. 内容・構成

（演奏）

演奏1,2,3,4は、山下・森山の視線上にカメラを置き、両者が視線で「呼吸」を合わせる様子を収録する。坂田は前に立つため、視線は合わせられない。それでも「呼吸」をいかに感じているのかを確認する。

（収録と編集）

・演奏、座談会は可児市文化創造センター「アーラ」にて行う。「アーラ」及びYAMAHAは森山氏のすべての音楽活動（機材・会場での音響・映像収録）を支援しており、松原も10年来本施設と懇意にしている。今回は箆橋「アーラ」館長のご厚意で、会場提供、楽器提供、音響調整など協力していただけることとなった（当館で製作した作品としては、「森山威男 Trio Jazz Live」参照）。ただし映像外注・交通費・宿泊費が必要となる。

・「協力 可児市文化創造センター「アーラ」 」と付記することを約束した。

・音響は「アーラ」で調整し納品していただく。松原のシナリオに従って構成するナレーションと画像は通常のテレビ番組作成と同じ要領となる。その納品物とナレーション部を組み合わせる最終的な映像作品となる。

・放送大学と可児市文化創造センターの「共催」であれば、さらに会場費・楽器・音響・調整が無料になる。

（内容 第1回）日本人にとってジャズとは何か

ー第一回 山下洋輔論文「ブルー・ノート研究」と初期山下洋輔トリオのフリージャズ ナレーション）

山下洋輔トリオの紹介

山下、森山、坂田

音楽のみならず戦後日本文化のレジェンドとしていまなお現役の彼らだが、日本では知られていないエピソードがある。

海外公演で、もっとも大きな反響を得た演奏家だということだ。

メールス 1974 スタンディング・オペション 1 時間

レコード『クレイ』冒頭と終わり

演奏 1) グガン

座談会 1) : ヨーロッパ・ツアーについての話題

森山・坂田にも発言していただく。

座談会 2)

あそこ(1969.2)何をかんがえていたのか ts 中村誠一

森山 「フォービートがうまく叩けなかった。しかし山下さんは「それでいい、それがいい」と励ましてくれた」

どんどん仕掛けを作っていった。

3) ピアノを前にして**山下インタビュー**、

ジャズの和音は、日本人の「うた」とズレるのではないか？

「バークレー・システムが入ってきたのを見ながら、『ブルー・ノート研究』を書く」

西洋音楽とアフリカの「節」、ピアノの右手と左手にはズレがある

アメリカ大陸における西洋音楽文明とアフリカの「うた」の衝突

ブルー・ノートの誕生

「ブルー・ノート研究」4つの譜面で説明

「元になった発想は小泉文夫から得た」

4 説明) アナウンサー

小泉文夫のテトラコルド理論について ピアノ実演・永武幹子

(「民謡」とは何か 4つの条件 →わらべ唄 長すぎるならカット)

4つの伝統音楽 テトラコルド

コンジャンクト 5で音階 5音

ディスジャンクト 7(オクターブ)で音階 5音

いずれにせよ、2つ音が欠けている

日本における、西洋音楽文明と伝統音楽の衝突

ヨナ抜き、ニロク抜き

5) 山下インタビューに戻る「最後に和音と『節』を合わせれば良い」

(森山 最後の合図とは? 「ケーコタン」等)

演奏2

山下ソロから始まり、盛り上がる曲

「ミナ（？）で始め、キアズマへ」

（内容 第2回）日本人にとってジャズとは何か
—第二回 初期山下洋輔トリオにおける「間」と「呼吸」

山下洋輔トリオ

各紹介

山下

森山

坂田

音楽のみならず戦後日本文化のレジェンドとしていまなお現役の彼らだが、海外公演で、もっとも大きな反響を得た演奏家でもある。メールス 1974

それにつき忘れられていることがある。演奏そのものを正面からとらえたの映像は残っていないことだ。

演奏3 ディスタント・サンダー（？）

森山インタビュー1)&実演

どんなドラムを構築していったのか

1. 2と3をまぜてわからなくする
2. クラシック的な盛り上がり 他 山下トリオの仕組みを構築していった。

坂田インタビュー2)

あれは「間」と「呼吸」の音楽

「ヨーロッパの連中は、何拍子か聞いてくるが、あれは「間」」

「呼吸に合わせていた。歌舞伎の「中村屋」みたいな」

座談会3) ジャズファンを超えた広い層に支えられた僕ら

早稲田講堂での演奏

燃えるピアノで演奏

筒井康隆との交流

タモリ発見

そばや

坂田さんは、当初はひたすらにスピード。ある時期から「音色」に深い関心を示した。声色の実演
田中角栄が犬に説教する

モンゴルのホーミー、「音頭の舟歌」

クラリネット、アルトサックスでの深い音色に至る

演奏4

坂田の「ひまわり」に始まり、クレイ

c. 取材対象 ロケ取材 : 有 ・ 無 など

d. 出演者など（※キャリアアップ支援認証制度を希望する場合は、担当講師及び客員教員発令の有無も記載）
山下洋輔（旭日小綬章）・森山威男（日本ジャズ賞、名古屋芸大）・坂田明（東京薬科大）

7) 主体性の確保

『森山威男 スイングの核心』同様、シナリオは松原が作成する。筋書きはすでに原稿として執筆済。

8) 制作予定期間	契約締結日～令和4年2月28日
-----------	-----------------

9) 演出上の特記事項 収録は可児市文化創造センターalaを予定

※音楽上のアドバイザーとしてジャズピアニスト永武幹子さんに依頼済み

10) スポット制作希望(原則有り) ☒ 有 ・ 無

11) 字幕制作希望	有	・	
------------	---	---	---

テレビ制作技術基準

別添1-1

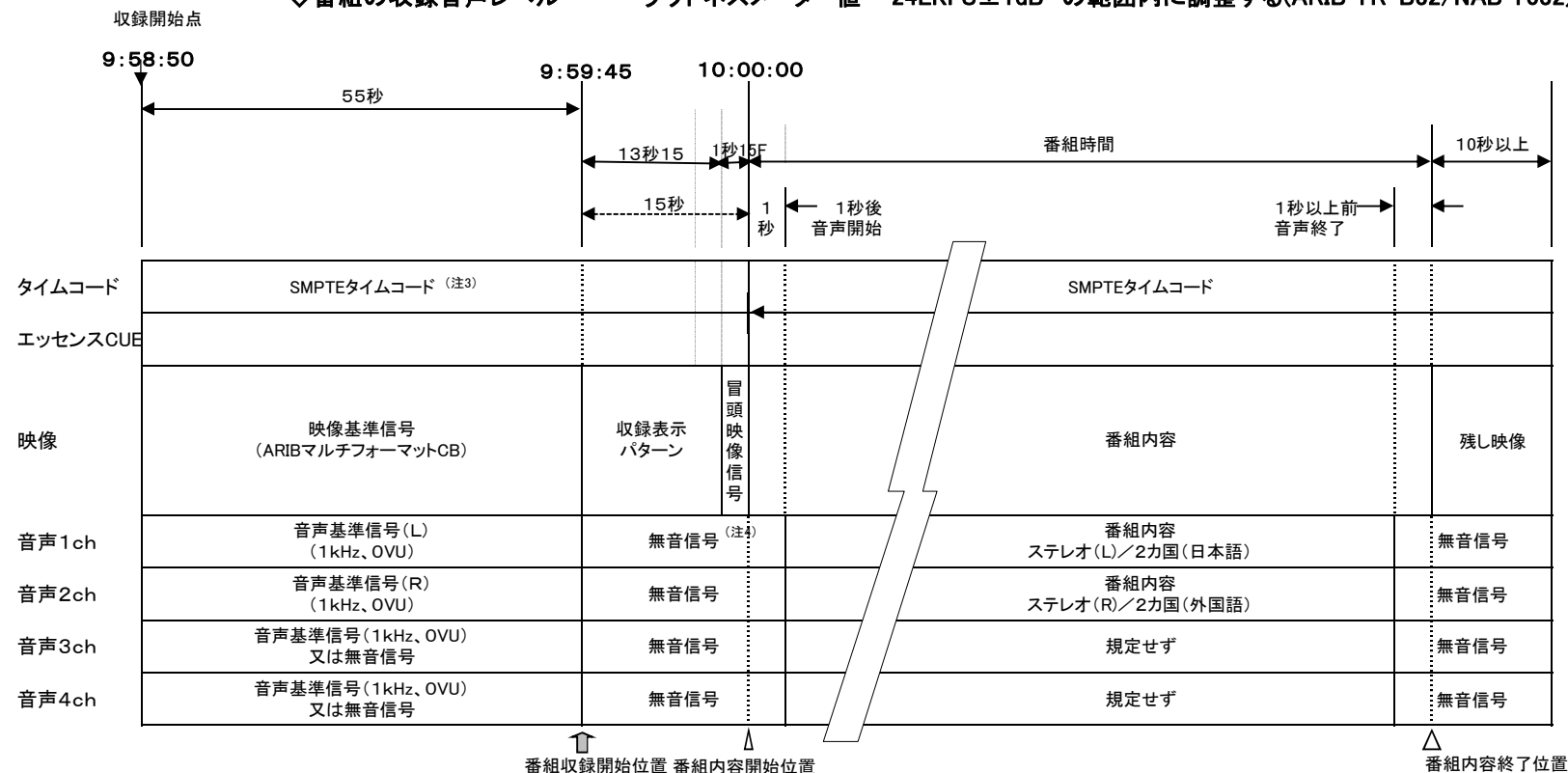
XDCAM-HDディスク放送用収録フォーマット

令和3年4月1日

◇映像:MPEG2 422P@50Mbps ◇音声:LPCM 48kHz 24bit 8ch ステレオ

◇MXFオペレーションパターン OP1a

◇番組の収録音声レベル ・ラウドネスメーター値 -24LKFS±1dB の範囲内に調整する(ARIB TR-B32/NAB T032)



* 予備SB(ステーションブレイク)は、1枚のディスクに複数本収録するが、それぞれが独立したファイルに1クリップで基準フォーマット収録する。

* 送出サーバー登録時、09:59:58:00からファイリングするため表示パターンを09:59:58:15まで記録する。

- 注1: ARIBマルチフォーマットカラーバーは「ARIB STD-B28」に準拠すること。
- 2: 音声基準信号は、OVU＝基準量子化値(フルビットから20dB下がった値 -20dBFS)とする。
- 3: タイムコードトラックには、収録開始位置から連続したSMPTEタイムコードを記録すること。
- 4: 無音信号とは入力信号を絞った(無音の)音声信号が記録された状態をいう。
- 5: 番組試写終了後、TDまたは担当者がラウドネスメーター値を番組収録連絡票に記入すること。
- 6: デジタル音声のプリエンファシスは使用しないこと。
- 7: ディスクごとに「ワンクリップ」収録とすること。
- 8: 末尾のフィラー音楽開始については、1秒以上音声の空白を挿入すること。

外部制作での完プロ制作における編集ソフトの考慮すべき項目

制作番組の完成品（完プロ番組）を放送大学学園に納入の際は、サーバ登録、送出、制作の観点から、下記の編集ソフトウェアを使用すること。

1. エディウス（GrassValley EDIUS）
2. プラナス（PRUNUS）
3. アビッドメディアコンポージャー（Avid Medeia Composer）

なお、上記以外の編集ソフトウェアを使用する場合は、必ず、XDCAM ディスクにベースバンド収録して完成品とすること。

以上によらない場合は、あらかじめ学園の承諾を得ること。